

第54期 中間事業レポート

2022年4月1日 — 2022年9月30日



新日本空調株式会社

証券コード 1952



代表取締役社長 前川伸二

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第54期第2四半期連結累計期間における日本の経済状況は、新型コロナウイルス感染症に対する制限が緩和され、社会経済活動も正常化に向かっていますが、ウクライナ情勢の長期化による資源価格の高騰やサプライチェーンの混乱、大幅な円安など、先行き不透明な状況が続いています。

当建設業界においては、都心を中心とした再開発や製造業の設備投資は引き続き堅調に推移していますが、資機材・労務費・運搬費の上昇傾向や技術者・技能労働者不足は依然として継続しています。

こうした環境下、当社グループは、AIやIoTを活用した技術革新への対応や、カーボンゼロへの対応、デジタルトランスフォーメーション、働き方改革による生産性向上に取り組むとともに、気候変動などの地球環境問題への配慮や人権の尊重を始めとする、サステナビリティを巡る課題への対応を引き続き推進しました。

当第2四半期の業績

当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、完成工事高439億5千2百万円（前年同四半期比6.5%増）、営業利益21億4千7百万円（前年同四半期比8.5%減）、経常利益27億8千5百万円（前年同四半期比5.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益18億8千4百万円（前年同四半期比3.1%増）となりました。また、受注工事高につきましては、655億3千8百万円（前年同四半期比4.3%増）となりました。

なお、中間配当につきましては、前年同期と同じく1株につき20円とさせていただきます。

さらなる価値創出に向けた課題と挑戦

当年度は、10年ビジョン「SNK Vision 2030」の第1段階、3か年中期経営計画「SNK Vision 2030 Phase I」の最終年度となります。2023年度からの「Phase II」の経営計画策定に際し、今後に向けた課題や新たに注力すべきテーマも明らかになりました。

一つには、独自技術の市場への展開です。当社グループは半世紀を超える歴史において、空調を核とした環境ソリューションの分野で技術力を磨いてきました。独自に研究所を持ち、実験と開発を繰り返す中で優れた独自技術が多く生まれ、育っていますが、その独自技術のさらなる市場展開を課題としています。近年は、感染症の拡大を受けて独自技術の微粒子可視化システムは急激に浸透しましたが、それ以外にも社会とお客さまに貢献できる様々な技術があります。

さらなる市場展開の鍵となるのが、良い技術があるから広めていく「技術志向」の発想から、世の中の課題に合わせた技術を提案する「課題重視」の発想への転換です。そして、お客さまや社会が今どのようなニーズを持ち、何に困っているのかを常に意識し、自社の技術をいかに活かし役立てていくかを考え続けるということです。

二つ目の課題はイノベーションです。環境負荷低減への貢献において、空調設備に何の技術を採用し、納め、運用していくかという過程での省エネルギー提案が問われる中、AIやIoTなどの先端技術を取り入れたイノベーションの実現が重要です。AIを活用した空調制御技術の実用化など、多様なシーンで社会やお客さまの要請に応える技術革新に取り組んでいきます。

カーボンリサイクルファンドの研究助成に採択

当社グループはカーボンニュートラルへの貢献の一環として、2021年より東北大学とともに、微生物燃料電池を用いた次世代大気中CO₂固定化技術の研究開発を進めています。2022年8月、東北大学大学院工学研究科の佐野大輔教授を研究代表者とし、当社も参画する本研究が、一般社団法人カーボンリサイクルファンド^{*}による2022年度研究助成金の交付対象となりました。本研究は、下水処理において空気から二酸化炭素ガスの分離回収を行う世界に類を見ない取り組みです。当社グループは本研究を含め、気候変動への対応をさらに加速し社会課題の解決に取り組んでいきます。

株主の皆さまには、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

^{*} 地球温暖化問題と世界のエネルギーアクセス改善の同時解決を目指し、研究助成活動や広報活動等により、カーボンリサイクルイノベーション創出支援を行うために民間ベースで設立された法人

第20回 環境・設備デザイン賞 (優秀賞・BE賞) をダブル受賞

～ 福島県の農業再生・地域社会・学校教育との連携に貢献～

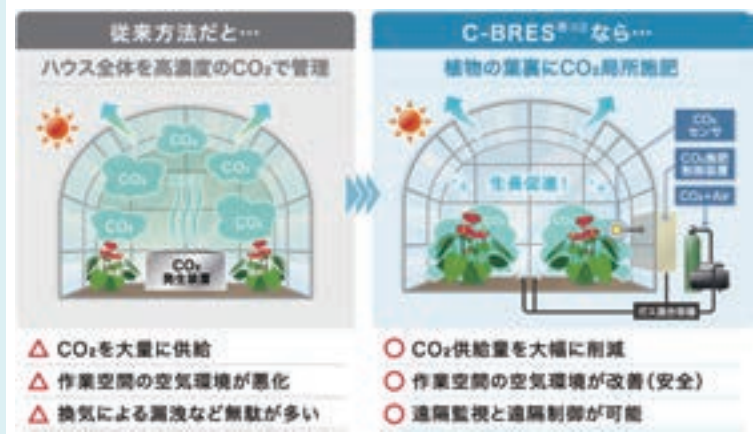
当社は、アースコンシヤス(株)と共同で、一般社団法人建築設備総合協会の主催する第20回環境・設備デザイン賞に「社会を豊かに、そして心を豊かに、未来へつなぐアグリカルチャー」と題した技術を応募し、設備器具・システムデザイン部門の優秀賞とBE賞^{※1}をダブル受賞しました。福島県の農業再生を目指し、①リサイクルポリエステル繊維媒地、②CO₂の最小施肥技術、③遠隔制御技術、の3つを組み合わせた全天候型栽培システムと地域社会や学校教育との連携が高く評価されました。

東日本大震災と原子力発電所の事故により、福島県の農業は大きな打撃と風評被害を受け、11年以上たった今もその影響が残っています。当社は原子力発電所の空調・設備工事に関わる縁から、福島の方々との交流が続いています。そこで、福島県の農業を少しでも元気にしたいという想いを強くし、農業の安定生産や生産性向上を実現する新しい栽培システムを完成させました。

栽培システムに使用しているポリエステル繊維媒地は、もともと廃棄される予定の衣服などからリサイクルしており、軽量で、排水性、保水性、通気性、肥料の保持力などに優れ、根張りもよく植物が育ちやすい特長を持っています。また、土壌害虫の発生や媒地の経年劣化に伴う連作障害が抑えられ、耕運も不要なため省力化にも貢献します。一方、CO₂の最小施肥技術とは、CO₂を葉の周囲にピンポイントで必要な時刻に必要な濃度で施肥する技術で、植物の生長を促進し栽培面積あたりの収量増加に繋がります。農業は土地や機械等の固定費が大きいため、生長促進により収穫サイクルを短縮することで固定費率が下がり利益の増大に貢献します。

当社は2015年より近畿大学農学部と連携し、福島県伊達郡川俣町の農家の方々を進めた栽培評価で地元の小学校への課外授業を実施し、栽培したアンスリウムを卒業記念に贈呈する機会を得ました。また、福島県立相馬農業高等学校へ栽培システムを導入後に、当技術について講義を行いました。このようなリサイクルポリエステル繊維媒地の利用とCO₂の最小施肥技術を組み合わせた「新たな農業のしくみ」を、将来の農業を担う生徒に、SDGsへの取り組みと合わせた生産技術の一つとしてレクチャーしたことが、今回の受賞に繋がりました。

当社は、環境・社会・経済の情勢を踏まえた上で、空気の温度・湿度・気流・ガス濃度などの環境要素の制御を農業に活用する農業のデジタル化 (ICT化) 技術を展開していきます。また、従来の技術を含め様々なソリューションを組み合わせることにより、今後もサステナビリティを踏まえた活動、貢献をしていきます。



※1 BE賞：環境・設備デザイン賞は「感性」「機能性」「経済性」「社会性」の観点で評価され、BE賞は、第1次審査来場者の投票により決定されます。

※2 C-BRES (シーブレス)：当社が開発したCO₂を効率的に植物に吸収させるため、温度、湿度を管理しながら植物近傍 (局所) のみにCO₂を供給する技術です。

微粒子可視化による感度検証技術の開発

当社は、1990年代より、人の目では見ることができない様々な微粒子を可視化して映像化する微粒子可視化技術の開発を行い、当社独自開発の微粒子可視化技術を自社ブランド「VIEST® (ビエスト)」として展開しています。この度、微粒子可視化映像からリアルタイム画像解析によって得られる粒子の粒径や個数を、高い信頼性で感度検証できる装置を開発しました。

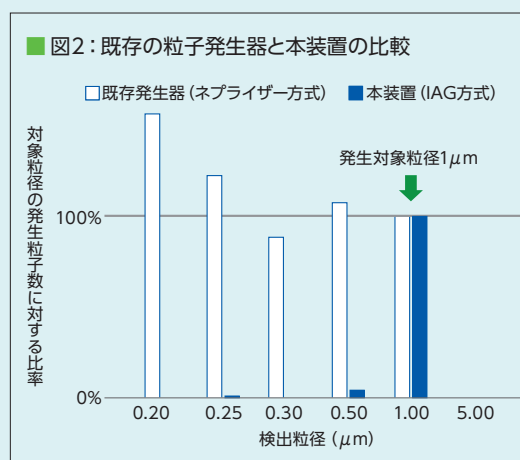
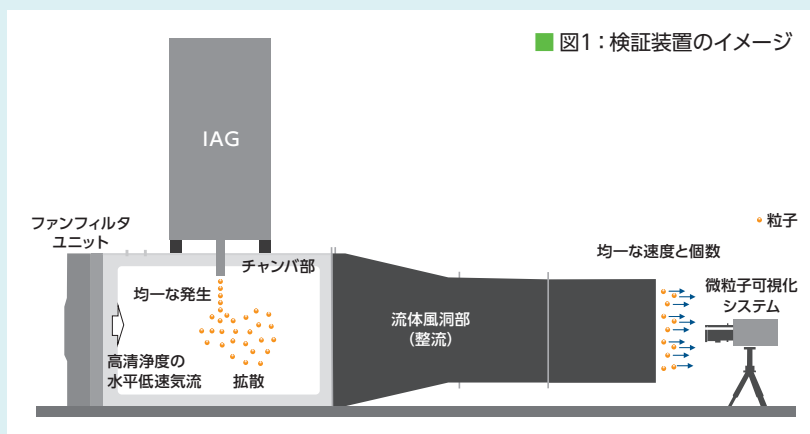
画像解析技術の高度化には解析結果の信頼性が必須ですが、これまでは、従来の粒子発生技術の性能改善が課題となっていました。そこで、国立研究開発法人産業技術総合研究所が開発した、検証対象となる粒子の粒径と個数を制御し、安定的に発生させることができるインクジェットエアゾル発生器（以下、「IAG」）を導入しました。このIAGと、当社の気流制御技術である粒子の流れを制御し、検証領域に安定した濃度で連続的に粒子を供給できる技術とを融合した検証装置を開発し、より信頼性の高い検証結果を得ることを可能としました。

開発した検証装置は、IAGから粒径の揃った粒子が一定間隔で発生し、チャンバ内に連続投入され拡散します。粒子は、ファンフィルタユニットの高清浄度の水平低速気流で運ばれ、流体風洞部に流され、そこで均一な速度の気流に整流されます。風洞の出口においては、均一な速度と個数で通過する粒径の揃った粒子を、微粒子可視化システムでモニタリングし、その解析結果を検証します（図1）。

また、既存の代表的な粒子発生器（ネプライザー方式）と本装置で、粒径 $1\mu\text{m}$ の粒子を発生させ、汎用的な粒子濃度計測器であるパーティクルカウンタにて粒径分布を比較しました（図2）。その結果、既存の発生器では、対象粒径より小さい粒子も多数検出されるため、可視化された粒子の粒径を一定

の大きさに絞ることができませんが、本装置では、発生対象の粒径以外の粒子がほとんど発生しないため、本装置の検証で得られる粒径と個数についての信頼性が高くなります。

今後、微粒子可視化技術については、今回開発した検証装置を活用し、さらなる高感度化を進めるとともに、定量的な粒子情報をリアルタイムに提供できるモニタリング技術の開発を加速していきます。これにより、製造ラインの異常値の迅速検出による生産性ならびに品質向上や、新型コロナウイルスに代表される飛沫粒子感染の粒径の影響、花粉等のダスト挙動など、保健や環境の研究分野への貢献を目指します。





多摩センタービル 東京都



MCCポートアイランド工場 兵庫県

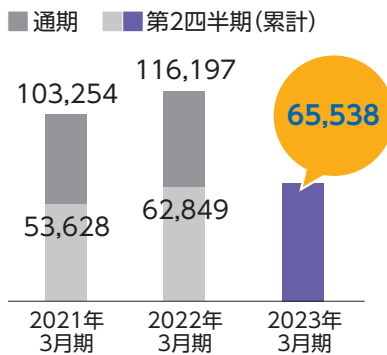


憲政記念館(代替施設) 東京都

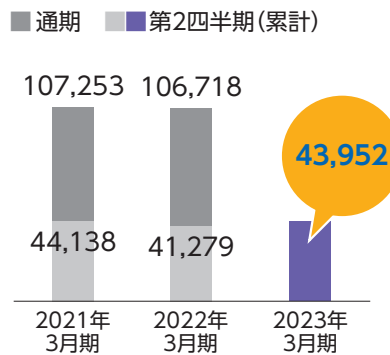
連結財務ハイライト

(単位：百万円)

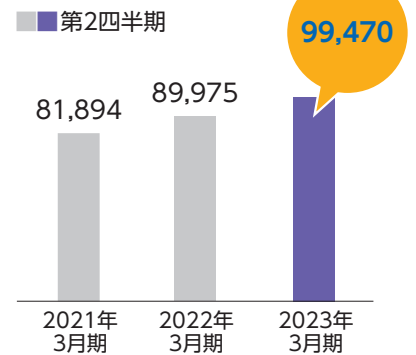
■ 受注工事高



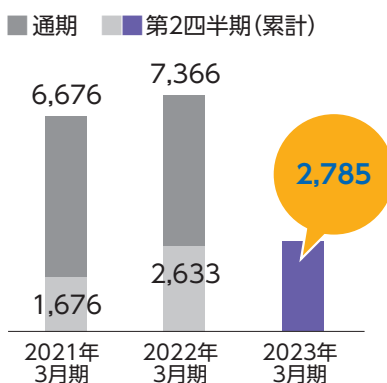
■ 完成工事高



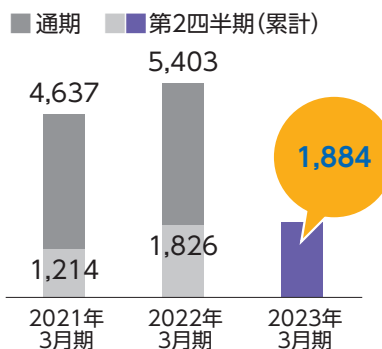
■ 繰越工事高



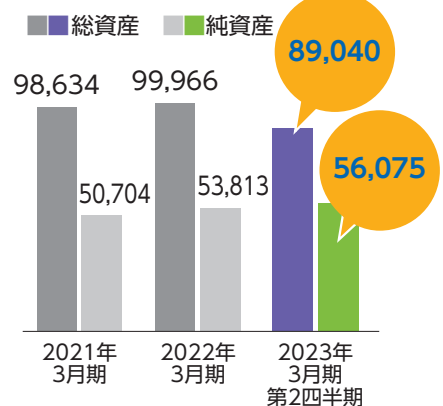
■ 経常利益



■ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



■ 総資産・純資産



■ 当社の概要

商号 新日本空調株式会社
Shin Nippon Air Technologies Co., Ltd.

設立年月日 1969年10月1日

本社所在地 〒103-0007
東京都中央区日本橋浜町2-31-1
浜町センタービル

資本金 51億5,860万円

従業員数 1,615名(連結)、1,136名(単体)

■ 役員

代表取締役会長 夏井 博史 社外取締役 森信 茂樹

代表取締役社長 前川 伸二 取締役常勤監査等委員 森本 利彦

取締役専務執行役員 遠藤 清志 社外取締役監査等委員 水野 靖史

取締役常務執行役員 下元 智史 社外取締役監査等委員 東海 秀樹

取締役常務執行役員 伊藤 雅基 社外取締役監査等委員 梅原由美子

取締役上席執行役員 井上 聖

■ 株式の状況

発行可能株式総数 84,252,100株

発行済株式の総数 24,282,225株

株主数 7,344名

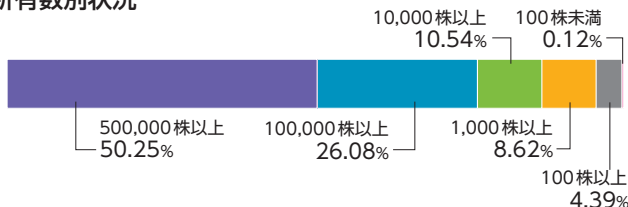
■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
新日本空調協和会	2,127	9.10
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,887	8.07
三井物産株式会社	1,266	5.42
株式会社東芝	1,255	5.37
株式会社三井住友銀行	1,006	4.30
新日本空調従業員持株会	933	3.99
三井住友信託銀行株式会社	800	3.42
日本電設工業株式会社	760	3.25
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	743	3.18
三井不動産株式会社	500	2.14

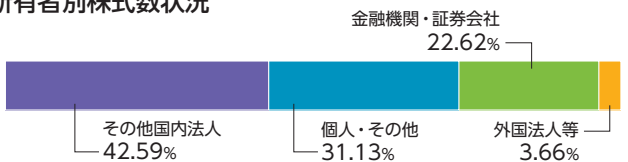
(注)持株比率については、自己株式を控除した株式数より算出しております。

■ 株式分布状況

所有数別状況



所有者別株式数状況



個人・その他 ……6,958名 外国法人等 ……90名

その他国内法人 ……248名 金融機関・証券会社 ……48名

■ 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 6月開催

基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話お問合せ先 ☎ 0120-782-031

1単元の株式数 100株

公告方法 電子公告の方法により、当社ホームページの下記アドレスに掲載して行います。
<https://www.snk.co.jp/>
ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。

各種手続き 氏名・住所変更、単元未満株式の買取等、株式に関する各種お手続きは、ご利用の証券会社へお問合せください。
なお、未払配当金のお支払いおよび特別口座に関するお問合せについては、三井住友信託銀行にて承っております。

未払配当金および特別口座に関するお問合せ先

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-782-031 (受付時間: 平日 9:00~17:00)
URL: <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

よくあるご質問(FAQ)

URL: https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal

株主優待のご案内

対象となる株主さま

- 毎年3月31日現在の株主名簿に記録された300株以上の株式を保有する株主さま
- 毎年9月30日現在の株主名簿に記録された300株以上の株式を保有する株主さまのうち、2年以上継続して保有している株主さま

優待品・贈呈時期

- 2,000円相当のカタログギフト 毎年6月下旬予定
- キッズスマイルQUOカード1,000円分 毎年12月上旬予定